

THREE OF SAIL

追風を受けて

【社会に貢献できる企業】を目指す。

社訓…躍進・情熱・調和



ロゴマークは社訓を基に作成しています。

事業継承

当初、大学を出て大手電気メーカーに勤めておりましたが、父の病のためUターンし後を継ぐことになりました。浦上の小さな倉庫からの出発で、暑い日も寒い日も、手作業で非鉄金属の回収を行っていました。

その後、徐々に仕事量が増えたため、更なる展開を考え、長崎、時津、長与、諫早、大村のどこにでも行ける多良見町（現諫早市）へ工場を移転し今日に至っています。

事業展開

弊社の幹を成す事業は、非鉄金属の回収・加工です。そこから、自社で炉を設け、アルミインゴットを製作する「長崎アルティング」、自動車リサイクルの「長崎リソースファクトリー」、自動車中古部品販売の「長崎リパーツ」の新事業への展開へとつながっていったのです。



▲国内向けリサイクルパーツ

株式会社 吉川金属商事
代表取締役 吉川 茂氏



▲ニブラ作業場

事業展開のキッカケ

新事業の中心である自動車リサイクルへの進出を図ったキッカケは、9年前の素材価格の下落という背景から、廃車が逆有償したため顧客の要望から自動車解体業への進出が始まりました。

当初は、抵抗もありましたが、弊社が行なうことで有益な部分を出せるという自信を持っていました。

取巻く環境

業界はこれまで「待ちの姿勢」で十分だったのかもしれませんが、長崎という限られたパイでは、限界があります。素材を十分に確保できなくなるケースも常に想定しており、緊迫した状況にならないためにも営業努力こそが、必要不可欠だと感じています。

スクラップならば吉川金属に持っていきようと思っただけで日々努力しています。

自社のこだわり

やはり、営業力を持つことが大事ではないかと考えます。現在弊社には、4人の営業マンがいます。

長崎県内だけでなく、昨年から佐賀県への営業を行ない営業圏を拡大しており、近い将来には、福岡県にまで広がっていきようと考えています。また、外に出るだけが営業ではなく、弊社に訪れていただいた方への笑顔での挨拶、応対もお客様への心に響く営業だと思っています。

自動車リサイクルにおいて「全部利用」という命題を掲げ無駄な部分一つなく利用しています。

県内では、唯一弊社だけがTHチーム(自動車リサ

イクル法第31条認定)という自動車メーカー・商社・製鉄メーカーとのコンソーシアム(連携)を組み、再利用率100%を実現しています。

最近でこそ、リサイクルという言葉は、世間に浸透し良いイメージが定着しておりますが、以前は、「3K」のイメージが強く、世間の風当たりは強いものでした。弊社では、このイメージを払拭するために、仕事環境、人材育成にも重点を置いています。

全部利用の実現

通常の自動車解体では、再利用価値があり、お金となる金属の部分は取外し、シートやバンパーなどは、そのままプレスされシュレッダー業者へ搬送されています。これらプレスされたものの中には水銀などの重金属が含まれており処理が問題とされています。

これまでの処理方法としては、埋立てが通常でしたが、日本の土地事情・地域住民の理解を考えると限界があります。そこで、弊社では、埋立てるのではなく「全部利用」という手法をとっています。

まず解体の過程で再利用できるものは、全て取り外し自社販売を行います。エンジンミッションは溶解炉に入れ融点の違いを利用しアルミと鉄を取り出します。アルミはインゴットに成型し、メーカーに引き渡します。そして自動車ボディプレスは、高温処理を通じてダイオキシンはもとより有害物質の発生を抑えたスラブ(燃えカス)へと処理され、土木工事の路盤材として再利用しています。



▲アルミ溶解炉

このような解体・売却・再利用までの一貫処理を可能にするため、マンパワーと建設機械を組み合わせる方法を4年の研究の成果として確立させ、さらに多くの時間と労力を費やし両者の熟練度をあげています。

環境整備

仕事の効率化を図るため、社員が動きやすい環境の整備、社員が自慢できる環境を作ってあげたいと考え、昨年稼働している「全天候型」工場を設立しました。その結果、衛生管理もさることながら、仕事効率の上昇、社員の自信にも繋がりました。結果として「汚い」というイメージの払拭にも一役かっています。併せてISO14001認証を取得し、周辺環境をも考慮した廃液全自動処理システムを導入し、職場環境のみならず周辺環境にも配慮した処理を行なっています。

社員教育

私は、社員のみなさんと対等の関係だと思っています。そして、数多くの業者がある中で自動車リサイクルならば吉川金属商事とさせていただけるよう接客態度には力を入れています。

採用時には、特に3Kのイメージを払拭するため、身だしなみには注意を払うようお願いしています。入社してからは日頃の態度が、接客態度・仕事への取り組みに出ると感じていますので、「笑顔での挨拶」は徹底させています。また、個々のモチベーションを上げるために常に自らの存在意義を考えて行動するよう話しています。

業務の中で品質管理は大事なことであり、金属の分別には特に注意を払っています。新人教育として、まず自動車エンジンの解体を行わせ目利きができるように訓練します。次の段階としてベルトコンベアで流れる破碎部品の分別が行えるよう熟練者との

OJTを通して教育を行っていきます。このような、OJTを4ヶ月間行うことである程度までの仕事を任せられるよう育て上げていきます。

厳しい仕事の中で私についてきてくれているという感謝の気持ちも込め、社員の誕生日にはささやかながらプレゼントを行っています。

財団の制度活用

きっかけは、銀行からの情報提供でした。固定金利の貸付制度などを2回利用していますが、設備導入の際には、本当に助かりました。財団の金融制度を利用することで経営基盤の強化ができ、次なるステップに移行できる良い機会だったと思っています。



▲アルミ缶のプレス作業

▲廃液全自動処理システム

企業概要

株式会社 川金属商事
代表取締役 川 茂
設立：1950年4月
資本金：15,000千円
所在地：諫早市多良見町化屋1894
・ISO14001認証取得企業

ながさき
元気企業紹介

TOP INTERVIEW
トップインタビュー